

読書に関するエッセー入賞作品集 2022

テーマ 「あの本のこの人に会いたい！」

または、あなたの読書法・読書論について

《小学生の部》最優秀賞

わたしのあいたいにおぼけ

海蔵小学校 二年

伊藤 咲 希

わたしは、『どうぶつのおぼけずかん』という本を読みました。この本をえらんだりゆうは、どうぶつがすきだし、おぼけずかんシリーズがクラスではやっていたからです。

この本は、いろいろなおぼけがつぎつぎでてきて、しゅじんこうになるお話です。

この本の中で、わたしが一ばん会ってみたいと思ったおぼけは、『かけっこソッピ』です。かけっこソッピは、うんどう会がちかづくとあらわれて、かけっこしようぶにさそうおぼけです。かけっこソッピにかけっこしようぶでまけてしまうと、うんどう会でじゃまされて、まったくかたくなります。でも、かけっこソッピはオリンピックせんしゅより足がはやくて本気でしようぶをしても、かてません。だから、わたしがかけっこソッピに会えたら、わたしがとくいなツーステップでしようぶしたいです。わたしは、かつしんがあります。

つぎに、あつてみたいのは『しくごやのヒジリーさん』です。しくごやのヒジリーは、しい

くごやのそうじをきちんとやらないとでてきて、目があうと、男の子ならきれいになるまでそうじをさせられます。男のわかい先生だともっとたいへんで、そうじをさせられたうえに、つぎの朝にはあひるにされてしまいます。でもしくごやのヒジリーは、女の子には見ることができません。だからわたしは会うことができません。会うことができないからどんなおぼけかよけいにきになります。

もう一人会ってみたいのは、『ももたろういぬ』です。ももたろういぬは白い犬で、くびわのかわりに『日本一』とかいたはちまきをまいています。おかしやたべものをもっているのに、もっていないとウソをつくと、足にかみついてきます。そしてかみつかれた人は、つのが生えて鬼になってしまいます。ウソをつかずにおかしやたべものを一口あげると、家までついてきて、てつだいをしてくれま

い、算数のべんきょうがとくいになりたいから、ももたろういぬに会ってみたいです。

わたしは、おぼけずかんのシリーズを何さつも読んでいますが、いつもおもしろいおぼけがたくさんでてきます。どうしてこんなにたくさんのおぼけがおもいつくのか、いつもどうやって本をかいているのか、作しやの斉藤洋さんに会ってインタビューしてみたいです。おぼけに会うよりは夢がかないそうです。

『どうぶつのおぼけずかん』は、ふしぎなことがたくさんお

《小学生の部》優秀賞

アンパンマンに込められた想い

浜田小学校 五年

加藤 那 奈

私が会いたいと思ったのは、『わたしが正義について語るなら』という本を書いたやなせたかしさんです。この本を読んだのは、学校の図書室でたまたま見つけて面白そうと思って借りたのがきっかけでした。

私はやなせさんのことは、有名な作品『アンパンマン』や『手のひらを太陽に』などをつくった人ということを知っていまし

こる本でももしろかったです。わたしのまわりにも、おぼけがたくさんでてきてほしいです。わたしはまだ、『これっておぼけのしわざかな。』とおもうようふしぎなできごとに出会ったことがあります。

『どうぶつのおぼけずかん』
(斉藤洋、講談社、二〇一六)



たが、本を読んで、アンパンマンのキャラクターに込められた深い意味などを知り、一度会ってお話してみたいと思いました。

本を読んでいて心に残った部分は、『悪人といえども、全部まっくろの悪人じゃない。善人にも悪い魂はある、悪い人間にも善良な部分はある、ただ悪いやつには悪い分量が多すぎると

いうだけで、全部まっくらじやない」というところです。

また、「ばいきんまんは良い人に弱い」というところです。

「現実の世界でも時々、すつとんきような犯罪者がいて笑ってしまふ時があるんだけど。ばいきんまんの場合は、何か悪いことをしても全部信じてしまふ、誠意そのものというように人に会々と、時々ダメになる」という所に、なるほどと思いました。

たしかにばいきんまんはいつもアンパンマンをやつつけようとしていますが、ドキンちゃんや仲間に対してはやさしい部分があったり、おくらちゃんという子は、ばいきんまんをやさしい人と思っていて、そんなおくらちゃんによく手伝いをやらされています。

このようにばいきんまんは悪人だけれど、おくらちゃんのように誠意そのものの人に会々とダメになって手伝いを断れなくなってしまうのです。

アンパンマンは実は作つてすぐに大好評だったわけではありませんが、むしろ大悪評だったのです。なぜかという、幼児用の絵本らしくなくて、主人公があまりかわいらしくなく、マンもぼろぼろだったのです。ですがやなせさんはそれを書きたかったのです。

「正義の味方は自分の生活を守ってくれる人ではないかと思っていた。子どもから見れば、おなかをすかして泣いている時

に助けてくれる、地味な正義の味方を書きたかった」と思っていました。が、幼稚園の先生からは顔を食べさせるのは残酷だと苦情がきたそうです。でも、後から書いた漫画のアンパンマンは少しちがっていて、そっちは好評だったのです。

私はこの本を読み、キャラクターの設定が細かくすごいなと思いました。

《小学生の部》優秀賞

のぶ長とぼく

常磐西小学校 二年

山下 弦輝



私は本を読むのが好きなのでもっと色んな本を読んで、もっと色んなことを知りたいと思いました。

『わたしは正義について語るなら』（やなせたかし、ポプラ社、二〇〇九）

ぼくは、ぶしよの本がすきで、たくさんぶしよの本を読みました。かりた本の中で、一番気に入ったのは、お田のぶ長です。のぶ長の本は、図書かんにいっぱいあったので、いろいろかりて読んでみました。すきなところは、①かっこいいおしろをたくさんもっていたところ。②いくさに強かったところ。③外国となかがよかったところ。などです。ぼくは、のぶ

長に会って、この①から③についてたしかめたいです。

①について、ぼくが一番すきなしろは、あまじようです。な

ぜかという、天しゆかくがかっこいいからです。のぶ長に会ったら、「いっしょにしろを作ろう。」と言いたいです。そして、しろを作る時に、どんなしかけにするのか、中みをどうするか、そうだしりたいです。ろうじようもできる、さい強のしろを作りたいです。

②について、のぶ長は、二万五千の今川よし元に、たった七千のへいで、かちました。ぼくも、作せんを立てて、かちたいです。かぶとや、かちちゅうをきてみたいです。黒田かんべえや、竹中半べえにまけないぐ

んしになりたいです。

③について、せかいの国のことを、いろいろ教えてあげたいです。たくさん新しいものを、のぶ長にあげて、おどろかせたいです。電きゅうを見たら、こしをぬかすかもしれません。

お田のぶ長は、本のう寺のへんで、明ち光ひでにうたれてしまします。ぼくは、明ち光ひでが、なぜうら切ったのかしりたいたです。いろいろなせつがあるので気になります。まず明ち光ひでとなかよくなつて、なやみを聞いてあげます。のぶ長からいじめられているのなら、二人がなかよくなれるように同めいをむすばせたいです。それでも

《小学生の部》優秀賞

未来のための金曜日

中部西小学校 五年

栗木 彩衣



本のう寺のへんがおきてしまいうそうなら、先に本のう寺の地下に、にげ道を作っておこうと思います。うまくいっしょに、にげるのができたら、いっしょに、のぶ長のすきな、あじがこい食べものを食べておいわしいたいです。もし、のぶ長にげることができなかつたら、おこつをひろつて、おはかを作つてあげたいです。

最近、コロナなどの大変な事態がおこったりして、地球のことを知った気になっていませんか？ わたし達がこうやって毎日を過ごしているうちに、地球は大変なことになっています。それに気づき、立ち上がった人がまだ十五才のグレタ・トゥーベンさんです。

地球は、気候の変動によりどんどん熱くなっています。なのになぜみんな平気でいられるのでしょうか？ 世界のどこの国もさまざまなことを議ろんしていますが、大切なのは地球を守ることであり、わたしたちのような子ども達の未来だと思っています。その未来を作るために、

グレタさんは、その日、学校へ行かず、国会議事堂へ向かったのです。

そして何日がたったところに、グレタさんは有名になり、仲間もできました。みんなグレタさんと同じ思いをしていたのかも知れません。そのグループは「未来のための金曜日」です。

そのすがたは世界中に発信されたようですが、中にはひ定的な意見もあり、日本からも、「学校を休んでまでやることなのか。」という声が出ました。グレタさんも学校を休むのがよくないことは分かっています。

ですが、わたし達子どもにできることはかぎられています。ですから大人のみなさん、政治家のみなさん、助けてください。守ってください。未来を信じられるようにする力を貸してくださいとたのんでいるだけなのです。

グレタさんが住むスウェーデンでは夏でも冷ほうはいらない寒い国です。それなのに二〇一八年には熱波におそわれ、たくさんの方が亡くなったそうです。ここ、日本でも台風やごう雨による災害で住む場所を失い、命をうしなうケースが絶ちません。

このような地球温暖化による被害をへらすため、わたしにも出来る事を考えてみました。一つ目は、できるだけ車の使用をさける。二つ目は、こまめに照明のスイッチを切る。三つ

目は、お湯は少しでもむだにしない。四つ目は、注意して買い物をする。五つ目は、冷暖ほうは使いすぎないようにする。ほかにもたくさん方法があるとわたしは思います。一人一人の努力が積みかさなって大きな力になるのは確かです。ですがそれだけでは足りなくなっているのが真実です。わたしはみんながグレタさんを見習えばいつか希望が見えると思います。

この本の表紙にはこう書いてありました。

「地球をまもり 未来を生きる 大人になるまで待つ必要なんてない」

今なら意味が分かる気がします。一年後、十年後、未来がど

《中学生の部》最優秀賞

清少納言に会えたなら

三滝中学校 三年

瀬古紅葉



うなっているかはだれも分からないけれど、未来を導くことならできます。それは「地球をまもり 未来を生きる」ということではないでしょうか。

グレタさんは今も必死でがんばっています。そんなグレタさんのせ中を見習っていきたいと思っています。

『グレタのねがい』

(ヴァレンティナ・キャメリニ、西村書店、二〇二〇)

楽しい話題や思ひ出話が多く書かれていことがわかりました。例えば、「にくきもの」の章では、忙しい時に限ってやってくる来客や、顔のまわりを飛ぶ蚊など、にくらしいものをたくさん挙げていて笑えます。

「うつくしきもの」の章では、雀の子が寄ってくる様子や、小さい子が何かをつまんで見せる様子など、たくさんのかわいいものが書かれていて、思わず「わかるー！」と言いたくなりました。

もし、清少納言の時代に行って会えたなら、どんなに面白いだろう。そんなふうに想像してみただけで、なんだかわくわくしてきます。あるいは、もし、清少納言が現代の日本にやってきたら……？ どちらにしても、いろいろと話したいことがたくさんあります。

「そなたの時代の国の様子は如何なりか。」なんて聞かれたら、どう答えましょう。

「春は短し。杉の花粉が飛び、いとかゆし。皆、布で口を覆ひ（マスク）、外には出でず。夏はいと暑し。童部も外では遊ばず。さらに、野分（台風）のいと大きくなりて、いとおそろし。雨、いみじう降りて（ゲリラ豪雨）、秋も短し。冬は雪あまた降りて危ふし。」

なんて答えたら、きつとびっくりするでしょう。でも、ちゃんとまだ四季があることは伝えたい。毎年、たくさんの方が、

お花見を楽しみにしていること。私の家の近くにも、素晴らしい桜並木があること。きつと、あの川沿いを歩いたら、清少納言だって感動するだろうな。それから、夏になれば、私の街にも、まだ螢がいること。秋には、お月見をしていること。月を愛する美しい心は、あなたたちから受け継いだんだよ、って、感謝の気持ち伝えたい。そして冬は……冬の景色もやっぱり美しいこと。雪景色はきつと、平安の頃から変わらない。そして、床暖房やエアコンで温かく過ごす時代の冬も、見せてあげたいな。こたつでみかんやアイスクリームを食べる楽しみも……！

時代を超えて、変わらないものもあれば、大きく変わったものもあるけど、今も、美しい日本の四季や、それを楽しむ文化があって、本当に良かったと思います。もし、それらがなくなってしまうたら、清少納言はどんなに残念がるでしょう。私たちはこれから先も、豊かな自然や日本の心を大切に守っていくことを、約束したいです。清少納言はきつと、やさしく微笑んでくれるでしょう。

『枕草子』（清少納言、岩波書店、一九九三）

